

# 鎮花祭(はなしづめのまつり)って、ご存知ですか？

由緒のふかい鎮花祭(はなしづめのまつり)は、毎年4月18日午前10時から大神(おおみわ)神社の本社においておごそかにとりおこなわれます。続いて、狭井神社でもおこなわれます。この祭の起こりは、崇神天皇の御代に疫病が流行したので、御祭神大物主神(おおものむしのかみ)の御告げによってその神裔(しんえい)大直禰子の命(おおたたねこのみこと)をして祭らせ給うたに始まると、大神神社の「年中行事特殊祭儀概説」に記載されています。

この祭りは、私たち奈良県の薬業人をはじめ、全国薬業関係者には大変ゆかりのあるお祭りです…。

## < 解説 >

この祭りの神饌(しんせん：神に供える酒食)中にユリの根とスイカズラ(忍冬)の薬草が供えられることから一名「薬まつり」とも申されています。～ユリは、和方でも漢方でも最も古くから用いられた薬物で、本草では「神農本草経」の昔から収載されています。

「味甘平、毒無し、邪気腹張り心痛するを主治し、大小便を利し中を補い気を益す」とあります。「芬々たる薫り、忍冬酒に等し」と貞享三年刊の浮世草紙に出ています。

もちろん、本年もおこなわれました。近畿各地から薬業関係者約二百人が参列され、平和と健康を祈り、薬業の進行を祈願されました。また、約三百社の製薬メーカーから、約二百種、およそ一万点の薬品が奉納され、神社では、奈良県内の老人ホームや福祉施設に寄贈されました。祭典の後、大礼記念館で直会(なおりえ)がこなわれ、国民の健康増進のために、より一層安全な医薬品を製造して提供していく努力を傾けることを誓い合った。



今年も、多数の神餅とともに献上された特殊神饌の忍冬(スイカズラ)とユリ根：拜殿  
二〇二二年四月十八日



～大宝元年(701)から神祇官における大祭として大神・狭井の二祭は必ず行わねばならぬと定められたことが「大三輪神社三社鎮座次第」に出ています。また、延喜式巻一には、平安朝初期に全国の有名な祭がしるされていますが、その中に「三月の祭、鎮花祭二座、大神社一座、狭井社一座」とあります。いかにこの祭が重視されたかがわかります。大神神社とともに、同祭典が摂社狭井神社でもおこなわれていますが、狭井神社のことを俗に花鎮社(けちんしゃ)または鎮(しず)め宮とよぶのは、実にこの祭によるものです。



～大和名所図会(やまとめいしよずえ)の巻四にも狭井社の条に「今は花鎮(けちん)と称す」とあります。

狭井は、山由理(やまゆり)のことを云うと伝えており、いわばユリの名の本地であり、このあたりに多かったことから名づけられました。



狭井：狭井神社は、薬井戸のお社で有名です。御祭神は、大物主大神をはじめとする事内主神の五柱で大神社境内の狭井川南岸で本社北一町程の処にあつて、その北側は昔「百舌」が一面に咲き美しい高台であった。この神社の拜殿東北には昔から霊験あらたかな伝えられる薬井戸があり、今日でも一日多くの方々がこのお水を「御神水」として諸病を免れるために汲みにくる。(現在は、衛生的にボタンで自動的に汲み出される)



汲み出されていた頃の薬井戸です



参列者もゴクッと...(2002年)

～鎮花祭の祭事と信仰は、平安期の初期から大和一円にかなり広い範囲にわたり「けちん・けっちん」と唱えて、各地に官座講までできました。

～今も三輪付近は、もちろん、天理市の各神社で稲作の予祝としておこなわれ結鎮と呼ばれています。京都、滋賀に伝わり近畿地方全域に及びました。特に京都では、「はなしずめ」が「やすらい」となり、「やすらへ花や、やすらへ花や」と桜の花の散らぬように囃される...



祭事は、  
2000 年来の古式床  
しく、厳かに  
おこなわれる...

神楽「浦安の舞い」の奉納

